

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1271202952		
法人名	株式会社マザアス		
事業所名	マザアスホームだんらん松戸		
所在地	千葉県松戸市小金原4-29-17		
自己評価作成日	平成22年1月23日	評価結果市町村受理日	平成22年4月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo.chibakenshakyo.com/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 日本高齢者介護協会		
所在地	東京都港区台場1-5-6-1307		
訪問調査日	平成22年2月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

前回の外部評価で改善点に取り組み、今年度は、運営推進会議の回数を2ヶ月に1回開催を行った。平成19年度に立ち上げた家族会を2ヶ月に1回行ない、季節の行事や日帰りバス旅行等を行い、家族と一緒に過ごす機会を多く作っている。(お花見、懇談会、地域夏祭り参加、流しそめん、バス旅行、クリスマス会等) 普段の生活ではユニットごとに、「入居者一人一人の意欲を引き出し、持っている力を発揮できるよう支援している」「入居者一人一人に役割を持って生活して頂けるよう関わりを持つ」を挙げ、実践している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

①閑静で上質な住宅地の中での立地で、建設時の住民の否定的な受け入れ感情を、この3年間でイベント開催時に施設見学を実施するなど、地域に溶け込む努力を重ね、良好な関係を築いている点、②家族との関係を大事にし、家族会、懇談会を計画的に実施している他、行事、バス旅行への参加など積極的な関わりを維持している点、③一人一人がその人らしくホームでのびのび過ごせるよう入浴、排泄、食事、外出などできめ細かいサービスを提供している点、④立地時点にあった風格ある庭を生かし、四季折々自然と接し、花、緑、果物、行事などを楽しめる空間としている点、など、運営、施設、サービス共に豊かな品格を感じることが出来るホームです。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念を作り、事務所内、玄関にも掲示し、全職員が理念を共有し実践につなげている。	「地域との交流をはかり、気がねなく暮らせる第二の我が家を目指す」との事業所理念を作り、年度事業計画に明示する他事業所内にも掲示して、全職員が理念の共有化を図ることにより、実践につなげ地域との交流を深めています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	町会に入会し、夏祭り、防災訓練、定期総会等の行事に参加。地域活動で一緒になった中学校との交流も行なっている。	町会定時総会や消防訓練、夏祭りなど地域行事への参加が進んでいます。ホームで“歌と踊りの会”を主催し、地元の独居の方へご案内して大変盛況となり喜ばれました。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域に向け、イベントを開催し、33名の方の参加があった。イベント終了後は、施設見学、質疑に応答する時間を設けた。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度より、参加メンバーを見直し、入居者代表、介護相談員を新たなメンバーに迎え、サービスの実際、評価への取り組み状況について話し合いを行い、サービス向上に努めている。	地域との交流を深めるために運営推進会議を定期的に、年6回開催してきています。会議には利用者代表や介護相談員も加え手厚い委員構成です。	従来はグループホームの理解を得るため活動報告が中心でしたが、今後はホームの地域への更なる定着を深めるために、課題を解決する場として「年間運営推進会議計画」を策定して魅力ある議題を定め、計画的・継続的に運営を行うことが期待されます。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護相談員の受け入れを行なっている。必要に応じ、担当者には連絡を入れている。	介護相談員には度々来所してもらっており、市の担当者にも必要に応じて連絡して当ホームの現場の実態を理解していただいています。今後も両者の協力を得ながら、ホームの課題解決をしていきたいと管理者は考えています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠に関し、職員、家族とも話し合いを行いながら、改善を行なった。全ての職員で、身体拘束を行なわないケアに取り組んでいる。	拘束感を訴える利用者も居たため、全ての職員で、鍵をかけない、身体拘束を行なわないケアに取り組んだ結果、今では、見え隠れしながら跡を追い“あらまた、お会いしましたね”とホームへの帰宅を促しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	県の研修に参加の他、事務所内にも資料を置き、いつでも学べるようにしている。全職員で、虐待が見過ごされることがないように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	県の研修に参加。必要に応じ活用できるように支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、十分な説明を行い、理解・納得を得られるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置。運営推進会議に家族・利用者の代表者が参加。家族会にて懇談会を開催。月に1度の介護相談員の訪問日を毎月家族に知らせている。	各ユニットごとに家族会があり、年間懇談会2回、バス旅行などの行事を4回行い、家族間交流や意見交換が盛んです。その他、介護相談員や運営推進会議、外部評価時の家族アンケートなど利用者・家族が外部に意見を表出する機会が数多くあります。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回職員ミーティングを行い意見を聞き、それを踏まえて、管理者会議を開催して職員の意見を反映させている	月例の職員ミーティングで職員の意見や提案を聞き話し合い、同一法人内の他のグループホームとの管理者会議で職員の意見を紹介しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回職員と面談する機会を作っている。チャレンジシートを利用し、職員の目標を聞き支援している		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格試験制度を定め、合格祝い金を支給している。試験対策講習会等を開催して支援している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に加入し、同業者との情報交換、研修会等を行なっている。社内のグループホーム3ヶ所で勉強会をおこなっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス導入前に面接を行い、本人が困っていること、不安なこと、要望に耳を傾け、安心を確保する為の関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス導入前に面接を行い、関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面接段階で、話を聞き、他のサービス利用も含めた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	暮らしの中で、人生の大先輩として職員が教えていただいたり、支えて頂く場面が多くある。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	平成19年度に家族会を発足させ、年に1度のバス旅行や行事を行なっている。各家族との個別の話し合いの場を多く持つよう努め、本人と共に支えていく関係が築けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人や場所との関係が途切れないよう家族と相談しながら支援に努めている。	地域のグランドゴルフ会に通って昔馴染みとプレーしている利用者がいます。墓参りは家族の方に付き添っていただきます。遠い昔になくなった兄さんに会いたいので息子に連れて行ってもらいたいという利用者に、暖かくなったら行きましょうねとなだめています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、関り合い、支え合えるような支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても、必要に応じ本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや暮らし方の意向の把握ができるよう努めている。困難な場合は、今までの経過を振り返ったり、本人が望むことの把握に努め、本人本位に検討している。	利用者の思いや意向を把握して関係者が継続的に支援していく方法として、センター方式を採用し本人と家族に関する思いや意向を1枚の共通シートを使って把握して職員間で共有し、支援で困ったときの振り返り資料にしています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族、知人等より話を聞き、これまでの暮らしの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員一人ひとりが現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族、必要に応じた関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画の作成に努めている。	本人、家族、及び必要に応じ、その他の関係者と話し合い、介護計画の作成に努めています。実施状況のモニタリングは3ヶ月毎ですが、随時短時間のショートカンファレンスを月2～3回行い、利用者の転倒防止など早急に必要の対策を個別に決めています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録に細かく記録を残す他、毎日の申し送りの時間やミーティングの際に情報を共有し実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況、その時に生まれるニーズに対応できるよう柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組むよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員等から情報を頂き、地域でおこなっている、茶話会、福祉フェア、夏祭り等に参加させていただき、地域の方々とのコミュニケーションを楽しんでいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	月1回神経科、月2回内科の協力医の往診があります。通常の通院は家族が支援していますが、急病時や家族がどうしても行けない時などは、出来るだけホームの車で通院支援を行うことにしています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	本部であるマザアス南柏の担当看護師に情報や気づきを伝え相談に乗ってもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者との情報交換や相談に努め、病院関係者との関係作りを行なっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早い段階で本人、家族と話し合いを行っている。事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、チームで支援に取り組んでいる。	看取りについては、入居時にホームの方針を家族に説明しています。利用者が重度化してきた場合は、医師、家族と相談して利用者にとって最善の方策になるよう対応策を決めています。終末期の利用者についても、家族、医師と十分に話し合っています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修を行なっている。研修後は、各自で振り返りや、学ぶことができるようマニュアルを作成し、事務所内に置いてある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を年2回実施している。地域の防災訓練にも参加している。	避難訓練の実施を通じ、災害時の対応体制ができています。所属自治体の定めで2階からの避難はすべり台使用となっています。夜間避難については、近郊に住む職員がかけつける体制を敷いています。	夜間の災害時には夜勤者2名が18名の避難を行うことは困難です。近くに住む職員の動員の他、近隣住人からの協力が得られるよう、実行可能な夜間避難計画を策定し、訓練実施の検討を行うことが期待されます。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応を行っている。	職員は新入時にマナー研修を必ず受けて、利用者に対する言葉づかいや人格を傷つけない接し方を身につけていますが、日頃のミーティングでもお互いに注意するよう、話し合い実践に努めています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中、本人が希望を表したり、自己決定ができる場面を多く設けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活の主体は利用者であり、職員の都合を優先させることが無いよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一人ひとりに合わせた身だしなみ、おしゃれができるよう支援を行なっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	職員は、入居者一人ひとりの好みや力を見極めるよう努め、一緒に食事の準備・調理・片付けを行なっている。	昼のメニューはフロア毎に1週間単位で作っています。誕生会の時は、その日に本人に食べたいものを聞いて作ります。外食は、月1回のペースで行い、食べたいもの、行きたい場所を皆で選んで決めています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の水分量・食事量を記録に残し、一人ひとりの状態を把握している。習慣や力合わせた食事の確保が出来るよう支援を行なっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔内ケアを実施し、本人の力に合わせた支援を行なっている。ケア実施確認を記録に残している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄を記録に残して、排泄リズムを把握し、習慣や力を活かし、トイレでの排泄や自立にむけた支援を行なっている。	ひとり一人の排泄記録を毎日つけ、各職員はその人の排泄パターンを把握し誘導を行っています。動作や仕草などから察知することもあります。できるだけ自立して行えるよう支援します。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々に応じた予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は毎日実施している。本人に確認し希望に添えるよう支援している。	原則1日おきの入浴ですが、その人に合わせて調節して行っています。浴室は介助が十分できる広さを確保しており、安全とプライバシーに配慮しながら支援を行っています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の生活習慣の把握に努め、その時々状況に応じて、休息したり、安心して休んで頂けるよう支援を行なっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬ファイルを作成している。臨時で処方される薬についても、全職員が把握できるように、伝達を行なっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	意欲を持って生活して頂けるよう支援を行なっている。本人の嗜好、趣味を把握し、楽しみごと、気分転換ができるよう努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	天候が許す限り、利用者の希望に沿い、戸外へ出掛けている。本人の希望で、普段は行けない場所へは、家族の協力を得て出掛けられるよう支援している。	今年度はほとんどの家族の参加を得て臨海にある公園に日帰りバス旅行を行いました。近隣の「お店マップ」を廊下に掲示しています。日常的に利用者の行きたいところを聞いた上で外出を行っています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事業所内においては、現金を預からない方針。普段の買い物時等は、立替を行い、現金を本人に手渡し、支払いを行なってもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	必要に応じ、電話や手紙のやり取りができるよう支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活空間に利用者が混乱を招くような刺激が無いように配慮し、季節を感じていただきながら、居心地よく過ごせるよう努めている。	梅、みかん、ザクロの木や灯籠もある広い庭園も利用者が四季を楽しめる共用空間になっています。廊下には行事の写真、法人文化祭に出展した作品、遠出外出時の写真などが飾られています。換気は24時間行われています。明るい空間です。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下にソファやエレベーターホールにテーブルセットを設置。利用者は、一人で過ごしたり、気の合う利用者同士で会話を楽しんだりしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内は、本人、家族と相談し、使い慣れたものや好みのものを活かしたり、力に合わせ、居心地良く過ごせる工夫を行っている。	居室にはソファ、小ダンス、家族写真など使い慣れたものが置かれています。床マットを寝具にしている方もおられます。それぞれの部屋が個性を反映して整えられています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部は、必要な場所に手すりを設置したり、洗面台も本人の身体状況に合わせ高さが調整できるものを設置する等、できるだけ安全に自立した生活が送れるよう工夫している。		